

## 今日のキーワード 欧州銀行の「ストレステスト」(欧州)

欧州連合(EU)の銀行監督機関である、欧州銀行監督機構(EBA)は7月29日、主要51行の健全性を点検する「ストレステスト」(資産査定)の結果を発表しました。「ストレステスト」とは、経済状況が悪化したり、金融市場が混乱したりしても業務が続けられるか、銀行の抵抗力の強さをみる点検手法のことです。リーマン・ショックにより銀行が相次ぎ経営不振に陥った反省を受け、先進国では定期的に実施されています。

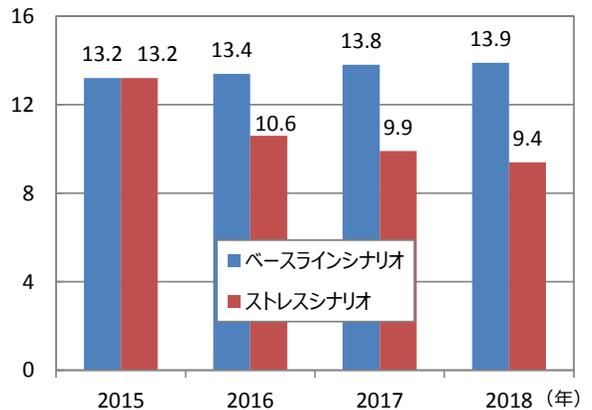
### ポイント1 前回より資本増強が進む 個別銀行の可否は判定せず

- 今回の「ストレステスト」は、18年までの3年間にわたるストレケースでも、全体としてみると、深刻な資本不足となる銀行は少ないという結果でした。51行全体の健全性を示す中核的自己資本比率は、15年の13.2%から、景気が失速すれば、18年末に9.4%まで下がるかと指摘しましたが、大半の損失は吸収できるレベルと見られます。
- 14年に欧州中央銀行(ECB)が実施した前回の査定では、自己資本比率の「合格ライン」を設け、25行を「不合格」と判定しましたが、今回は金融危機をおおむね脱したとの理由で、個別の銀行の可否を判断していません。

### ポイント2 モンテパスキ銀行は厳しい 再建策を同日発表

- ただし、最も市場で注目されたイタリアのモンテパスキ銀行については唯一、ストレケースで自己資本比率がマイナス(▲2.23%)となりました。
- 同行は29日、最大50億ユーロの増資を含む再建策を発表し、投資家の不安払拭に努めました。イタリアの銀行は大量の不良債権を抱えており、抜本的な再生には時間がかかりそうです。

【ストレステストによる自己資本比率】



(注) データの期間は2015年～2018年。  
(出所) EBAのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 欧州銀行の健全化は途上

- 今回の査定結果は概ね事前の市場予想通りであり、直ちに欧州の金融システム不安が高まるといったような材料ではありません。しかし、一定規模の銀行で線引きしたため、欧州の中でも不良債権比率が高いギリシャやポルトガルの銀行は対象に含まれておらず、不安が払拭されたとは言えません。
- 欧州銀行については今後、マイナス金利政策が長期化することによる金利収入の縮小や、英国のEU離脱選択を背景とした投資銀行業務への下押し圧力(手数料収入の減少)などが懸念されます。こうした収益面のリスクを考慮すると、欧州銀行の健全化はまだ途上と見られます。

ここもチェック! 2016年7月22日 ECBの金融政策 (2016年7月) 現状維持: 9月追加緩和を予想  
2016年7月15日 BOEの金融政策 (2016年7月) 据え置き。8月の金融緩和を強く示唆

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。